

7 地政言説から政治を読む

「現代の地理学」第7週

言葉と政治

- ▶ 政治
 - ▶ 「人間集団における秩序の形成と解体をめぐる、人が他者に対して、または他者と共に行なう営み、権力・政策・支配・自治に関わる現象」(広辞苑)
 - ▶ 国家のみならず、それ以外の集団や個人も深くかわる
 - ▶ 政治地理学＝社会のさまざまな場面において、権力・政策・支配・自治といった政治の営みがどのように地理的な対象や要因と関わるかを考える地理学の一分野
- ▶ 政治の過程で空間や場所は「想像」され「表象」される
 - ▶ 想像＝政治に関わる当事者(たち)がある特定の空間や場所を思い描くこと
 - ▶ 表象＝こうして想像された空間や場所を言葉や画像などを使って表現すること
 - ▶ 政治家＝自分が選出された地域を構想し、政見や公約として表現する
 - ▶ 言説＝空間や場所を想像し、表象する政治的言語行為をとらえる概念

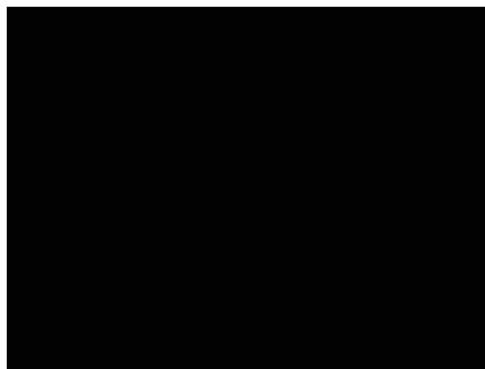
▶ 2

言説とは (1)

- ▶ 単に話された言葉や書かれた文章ではなく
- ▶ そうした言葉や文章が何らかの意味もつことを可能にするある種の定型化された表現の様式(言い回し)
- ▶ そうした様式は言語的な表現に限らず、画像や動作などの表現行為にも確認される
- ▶ 311以前の関西電力の原発CM
 - ▶ 「原子力＝クリーン」
 - ▶ <http://www.nicovideo.jp/watch/sm14186213>



▶ 3



▶ 4

言説とは (2)

- ▶ 言葉や画像などの表現行為によって特定の意味が作りだされる
 - ▶ 「原子力＝クリーン」
- ▶ その行為を取り巻くさらに広い社会的・政治的な概念や意味の体系に結びつけられ
 - ▶ 国家のエネルギー政策、地球環境問題
- ▶ その表象の対象が正当化される
 - ▶ 原子力発電の推進
- ▶ 言説はあくまでも現実を「作りだし」、人のある方向に動かす権力と結びつく
 - ▶ 意味内容は真実として安定せず、論争や対立に発展する
 - ▶ 強大な権力を持つ側が言説を作りだし、弱者に受容させる(自己/他者の不均等な関係)

▶ 5

地政言説 (1)

- ▶ 特定の空間や場所の表象
 - ▶ 表現者やそれを受け取るものの心象地理と関わる
 - ▶ 心象地理＝自分とは関係ない離れた場所・人々・景観・自然についての表象。これらのイメージは表象する者の欲望や想像、そして表象する者とされる対象との間の力関係を反映する
 - ▶ 東日本大震災の被災地・者はどう表象されたか



<http://www.city.masuda.lg.jp/soshiki/27/detail-10623.html>

▶ 6

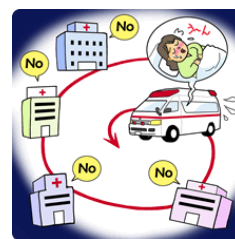
地政言説 (2)

- ▶ 空間や場所に関する想像や表象が「言説」として作用する場合
 - ▶ 自己の空間や場所と他者のそれとを区別する
 - ▶ 被災地と非被災地
 - ▶ それを包摂したり排除したりする関係に置く
 - ▶ 被災地の農産物・出身者の排除や隔離
 - ▶ 意図的な—政治的な—行為
 - ▶ 風評や不買運動・差別
 - ▶ 国際政治に限らない
 - ▶ 言葉や画像による表現行為が、特定の空間や場所を意味づけ、ある種の真実を作りだし、政治的に大きな影響を及ぼす(政治家やメディア)＝地政言説

▶ 7

言説とスケール

- ▶ 特定の空間や場所に言及する
 - ▶ そこには一定の「広がり」(スケール)があり、同じ空間の広がりでも政治的には異なった表現がされる
- ▶ 妊婦死亡事件をめぐる(2008年秋)
 - ▶ 舛添厚生労働大臣(当時): 医師不足があっても東京都の医療体制の問題(国<東京都)
 - ▶ 石原東京都知事(当時): 問題は医師不足で国の医療行政の責任(国>東京都)
 - ▶ 医師、病院の責任ではない
 - ▶ 都内で類似のケース、受け入れ拒否は大都市部で顕著(読売新聞調査)



https://daigaku.shingakunavi.jp/jp/contents/gakumon_daigaku/news/0812_2/index.html

▶ 8

空間と場所の言説 (1)

- ▶ 地理学における地表の一部を把握する概念
 - ▶ 空間: 計測が可能な**客観性**、長さや規模など量に還元できる**抽象性**、標準化できて互いに比較可能な**一般性**を備え、そうした空間内で発生する事象(都市や工場の立地など)について**法則性**探求の対象
 - ▶ 場所: 空間の一部ながら、人々の**日常性**と密接に関わるもの。人々の記憶やイメージと結びつくという意味での**主観性**、特定の歴史や立地条件にもとづく**具体性**、あるいはその意味や価値を原則として代替・複製できないという意味での**固有性**などで特徴づけられる
- ▶ 政治の場面でも土地に対する対照的な見方が対立の焦点となる

▶ 9

空間と場所の言説 (2)

- ▶ 広島県福山市鞆の浦埋め立て架橋計画
 - ▶ 江戸時代の港町の街並みと港湾施設
 - ▶ 狭い街路、過疎化と産業衰退→広島県、福山市が計画立案
 - ▶ 一部住民が歴史的景観の破壊として反対
 - ▶ 映画「崖の上のポニョ」(2008年)の舞台のモデルとされる



<http://www.sawasen.jp/tomonoura/tomonoura/kakyo.html>

▶ 10

空間と場所の言説 (3)

- ▶ 羽田昭福山市長の事業現地説明(2007年)
- ▶ 私自身も、この鞆の町に生まれ育ち、ずっとこの町を見てきた。目の前には瀬戸内海の自然豊かな海、背後には熊ヶ峰の山々そして歴史を伝える町並みや寺社、お芋火、お弓行事、はっさくの馬出しなど代表的な祭りはもちろん、毎月のようにどこかで祭事が行われている。これらは、この町に住む人々が引き継いできた**伝統文化**であり、**鞆の長い歴史**である。
- ▶ しかし、現在の鞆に住む人々の暮らしはどうであろう。「町中の狭い道路は、すれ違いにも困難で、いたるところで混雑している。」「その車を避けながら歩かなければならない。」「下水道も未整備。」「台風時は高潮も心配。」「住みにくさから若者は出て行く。」「こうした鞆の実情を誰もが心配されていることを十二分に理解している。
- ▶ 確かに近年、鞆は全国的にも注目され、様々なイベントづくりによって観光のニーズは高まっている。しかし、こられた方々は「**駐車場はない**。」「**駐車場を探して町中に入れば身動きができなくなる**。」「そうした思いをされているのが現状ではないだろうか。

▶ 11

言説の分析

- ▶ フレーム分析
 - ▶ 社会運動を「枠づける」言葉(フレーム)に注目
 - ▶ 民族運動や環境運動などは特定の信念、価値観、世界観のもとに組織される
 - ▶ 運動の組織者は自らの活動を正当化し、敵対する立場の考え方を否定する
 - ▶ 空間や場所に関するフレーミングは地政言説の例

▶ 12



地政言説としての大阪都構想 (1)

▶ リスケーリングの言説

▶ 「大阪都構想」

- ▶ 橋下(はしもと)徹大阪府知事(当時)を代表とする地域政党「大阪維新の会」(以下、維新の会)によって2010年から提唱された、大阪府域を基盤とする新しい大都市制度のビジョン
- ▶ 大阪府域を継承して新設される「大阪都」が広域行政(成長戦略)の権限を占有し、府内の政令指定都市(以下、政令市＝大阪市と堺市)を廃止し、その行政区を統合再編してできる複数の「特別区」が、公選される区長のもとに基礎自治体としての機能を担う
- ▶ 衰退する大阪府・市の経済的再生のため
- ▶ リスケーリングの構想
 - 強い権限を持つ政令市のスケールを廃止し、その機能を上位のスケール(都)に集権させ、下位のスケール(特別区)に分権させる2つの層からなる統治機構を作り出す

▶ 15

地政言説としての大阪都構想 (2)

▶ 橋下前知事vs.平松前市長

▶ 「知事市長意見交換会」(2009～10年)

▶ 16

地政言説としての大阪都構想 (3)

▶ 橋下＝垂直的リスケーリング(府市統合)

▶ 僕、知事になる前から、大阪府と大阪市の問題というのはずっと考えてきて、大阪を起死回生、発展させるためにはやっぱり府と市を解体して、きちんと広域行政の仕事と基礎自治の仕事をきちんと整理をするという思いで知事になったところがあるんです。(略)僕はこの問題、全部解決するために、まさにですね、広域行政がやる仕事と基礎自治体がやる仕事を割り振って、そして財源も割り振って、しっかり指揮官1人、広域行政の指揮官は1人、基礎自治体の指揮官はそのコミュニティの中では1人というふうに整理をすることで、今回の問題は全部解決できます。

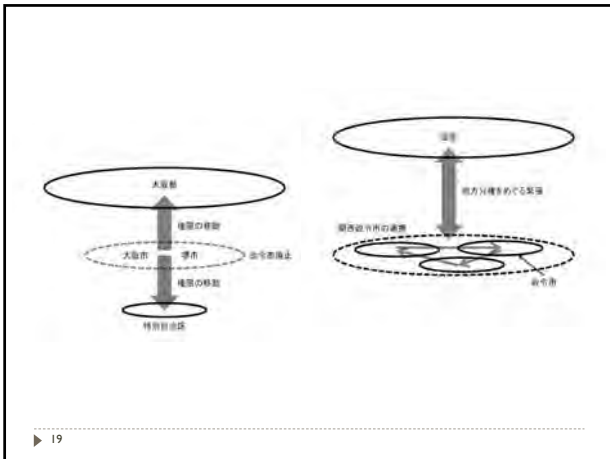
▶ 17

地政言説としての大阪都構想 (4)

▶ 平松＝水平的リスケーリング(政令市水平連携)

▶ 歴史的に見ると、大阪府は周辺のことを絶えず考えながらいろんな手を打ってきている。それがもっと見える形で、大阪府が主導する形で、周辺市と水平連携をしたい。あるいは、私は既に始めておりますが、京阪神堺というこの4政令市が、どう協力しあったら、こんなすごい地域ないわけですから、関西州が一番のあんこの芯みたいな部分であることは間違いないわけですから、そういった部分は先に、いろんな形での連携を動きたい。

▶ 18



▶ 19

地政言説としての大阪都構想 (5)

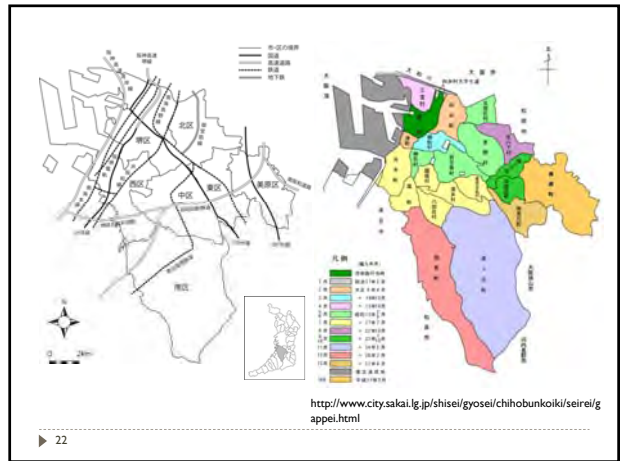
- ▶ **空間／場所としての大阪**
 - ▶ 都構想＝行政区域という機能的空間の効率的再編を目指す「空間の言説」
 - ▶ 人口、税収、その他行財政指数に置き換えられる
 - ▶ 自治体の区域は機能性や合理性からのみ認識されない
 - ▶ 人間によって生きられ、経験された空間＝場所でもある
 - ▶ 歴史・風土・文化が形成される
- ▶ **平松による「場所の言説」**
 - ▶ この地方分権というのも、いつまでたっても、お上からものを分け与えるという、そういう形で進んでいくこと自体が非常に不思議なんです。地域ってというのは、それぞれの歴史的、あるいは地政学的な影響力によって発展してきますから、そこが持っているいわゆる「地」の力、土地の力、地域力と言うんですか、そういったものをきちんと自分たちに返していく、それが今の税制とか、あるいは、中央集権、一極集中制度のもとでは、すべて真ん中で、だから知事がおっしゃっている震ヶ関解体というのはまさしくそこがポイントです。

▶ 20

堺市長選挙と「場所の言説」 (1)

- ▶ **都構想最初のステップ＝政令市の廃止**
 - ▶ 2011年4月大阪府・市議会選挙で維新の会圧勝
 - ▶ 2011年11月大阪府知事・市長選挙で松井・橋下当選
 - ▶ 次のターゲットは堺市
 - ▶ 府内第二の人口(84万人)、泉北の中心都市、大阪市の衛星都市
 - ▶ 戦国時代に海外交易の中心港
 - ▶ 桃山時代に商人層による自治的都市運営
 - ▶ 市政施行1890年

▶ 21



<http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/gyosei/chihobunka/kyosei/gappei.html>

▶ 22

堺市長選挙と「場所の言説」 (2)

- ▶ **堺市長選挙(2013年)**
 - ▶ 現職・竹山修身(無所属、民主推薦)
 - ▶ 橋下の指示を受けて市長に、のちたもとを分かっ
 - ▶ 新人・西林克敏(維新の会公認)
 - ▶ 南区選出の市議会議員



<http://saigaiyohou.com/blog-entry-955.html>

▶ 23

堺市長選挙と「場所の言説」 (3)

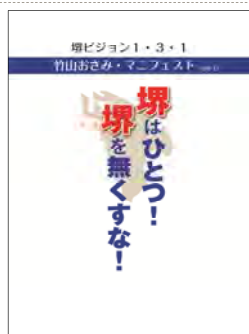
- ▶ 今こそ、堺市と大阪府・大阪府が一体となって自らの発展を戦略的に目指すことのできる枠組みを構築する必要がある。一方で、人口84万人の大都市では、一人のリーダーがきめ細やかな行政サービスを市民に提供することは困難である。行政区が自治権を持ち自立する。自分たちで区のリーダーを選び、予算の使い道を自分たちで決められるようにする。これが真の地方分権である。



▶ 24

堺市長選挙と「場所の言説」 (3)

- ▶ 大阪都構想が実現されれば、堺市は廃止され、複数の特別区に分割されます。そして堺市が政令市として持っている権限や財源のかんりの部分を大阪府に返上することになります。堺市の「自治」は奪われ、「堺のことは堺で決める」ことができなくなってしまうのです。また、地域の一体性は失われ、堺市民として郷土を愛する心や誇りは消えていくでしょう。「特別区設置協議会」は、堺市を廃止、分割するための議論をする場です。私はこの協議会への参加を断固拒否し、市民の皆さんとともに**歴史と伝統ある自治都市・堺を守り抜きます。**



▶ 25

2017年堺市長選挙マニフェスト



▶ 26

堺市長選挙と「場所の言説」 (4)

- ▶ 竹山の言説戦略
 - ▶ 都構想＝統治空間の機能的再編という「空間の言説」に対し
 - ▶ 「場所の言説」
 - ▶ 政令市の権限、財源、自治を守る
 - ▶ 郷土愛や自治都市としての歴史や伝統を強調する
 - ▶ 堺市＝歴史的構成物、分割不可能な有機的場所
 - ▶ 竹山勝利
 - ▶ 竹山「自由と自治のDNA」
 - ▶ 『大阪日日新聞』の論評(次頁)

▶ 27

堺市長選挙と「場所の言説」 (5)

- ▶ 「場所の言説」の評価
 - ▶ 『大阪日日新聞』(2013年10月3日)
 - ▶ 136-7頁参照
 - ▶ 竹山氏の勝因
 - ▶ 「ローカリズム」の土壌
 - ▶ 山中永之佑氏(堺市在住)の弁
 - ▶ 竹山陣営を勝利に導いた市民意識
 - ▶ 「場所の言説」の問題点(真実らしさの装い)

▶ 28

言説の地理的基礎 (1)

- ▶ 言説＝**真実らしさを装うが真実を伝えるものではない**
 - ▶ 現実を単純化し、それを真実として構築し、主張を正当化
 - ▶ 地政言説＝単なる荒唐無稽な夢物語ではなく、**真実らしさをおびる一地理的基礎(自然、立地、人口、産業など)に関わる諸事実から構成**
- ▶ 2009年と2013年の堺市長選挙結果の分析
 - ▶ 表7-1
 - ▶ 堺区(旧市街、中心業務地区)と南区(泉北ニュータウン)の違い
 - ▶ 表7-2
 - ▶ 堺市の歴史・文化・伝統産業に関する認知
 - 堺区・北区:高い、南区・美原区:低い
 - ▶ 居住区の特徴の認知
 - 周辺の南区・美原区で高い

▶ 29

言説の地理的基礎 (2)

- ▶ 2013年結果についての仮説
 - ▶ 市域となった時期が早く、環濠都市・地場産業地区や百舌鳥・古市古墳群を含む堺区・北区は「場所の言説」に感化されやすい
 - ▶ 周辺に位置する南区・美原区は堺市の歴史や文化との接触が乏しく、「場所の言説」に感化されず、その独自性から「堺はひとつ」のフレームの効果も大きくない
 - ▶ 南区:新人候補への支持が高い傾向
 - ▶ 美原区:現職候補が助役経験
- ▶ **投票行動に明確に地域差**
 - ▶ 有権者の生活や意識の地域差と関係する可能性
 - ▶ 竹山の「場所の言説」＝地域差を隠し、市内の一部の歴史を市域大「ひとつ」のもの表象
 - ▶ **2017年9月の堺市長選挙でもほぼ同じ結果**

▶ 30

地政言説から政治を読む

- ▶ **空間の言説**
 - ▶ 都構想＝統治空間の機能的再編、政令市の廃止と分割
- ▶ **場所の言説**
 - ▶ 区域の生活・歴史・文化や政令市の一体性を強調
 - ▶ 有権者に真実らしさを伝え、防衛的な反応を導きやすい
 - ▶ 2015年の特別区設置住民投票でも類似の傾向
- ▶ **自治体は「ひとつ」ではない**
 - ▶ 区域内の各地区に多様な施策が必要
 - ▶ 選挙は一つの「真実」の選択ではない
- ▶ **政治の言葉を言説としてとらえ、精査・吟味するリテラシー**
 - ▶ 政治は表象を超えた物質的過程
 - ▶ 言説の批判的分析はその切り口